

## 心停止蘇生後に意識障害とミオクローヌスが出現し、BZP 離脱症候群が疑われた 1 症例

◎竹下 和輝<sup>1)</sup>、林田 朝子<sup>1)</sup>、有泉 マユミ<sup>1)</sup>、重松 眞美<sup>1)</sup>、嶋田 裕史<sup>2)</sup>  
福岡大学病院 臨床検査部 生理機能検査室<sup>1)</sup>、福岡大学病院 臨床検査部<sup>2)</sup>

はじめに ベンゾジアゼピン（以下、BZP）離脱症候群は、BZP 系薬の長期服用後や急速な中止の際に生じる一連の離脱症状である。今回我々は、うつ病加療中の患者で心停止蘇生後に意識障害とミオクローヌスが出現し、BZP 離脱症候群を疑われた症例の脳波の経時的变化を記録することが出来たので報告する。

症例 患者：39 歳、男性 基礎疾患および現病歴：うつ病で数種類の BZP 系薬を服用していた。20XX 年 12 月初旬、歩道で倒れ、救急車内で CPA となり、胸骨圧迫が開始され当院救命センターへ搬送となり加療された。

入院後経過：挿管中は鎮静薬としてミダゾラムが使用されていたが、抜管後は中止された。中止 3 日後から意識レベルが低下し、不穏を認めた。第 13 病日には刺激に対して反応が悪い状態であったため、頭部 CT、MRI を施行したが明らかな異常を認めなかった。その後、幻覚や幻視、全身性のミオクローヌスを伴ったため、第 17 病日に脳波を施行した。脳波所見は、全般性に速波と律動性  $\theta$  波を認めた。脳波検査中にジアゼパムを投与

したところ、律動性  $\theta$  波が消失すると共に意識レベルが改善した。また、10Hz 前後の後頭部優位律動が出現した。非定型的だが低酸素性虚血性脳症による非痙攣性てんかん重責（NCSE）が疑われ、抗てんかん薬ホストインが投与されたが無効であった。患者の症状の経過や BZP 薬は著効するという点から BZP 離脱症候群が疑われ、ロラゼパムを処方することで症状が改善し、第 19 病日施行の脳波でも 11~12Hz の後頭部優位律動を認めた。

## 考察

今回経験した BZP 離脱症候群の脳波所見は、基礎波が低振幅で  $\alpha$  波が減少し、 $\theta$  波を認めていた。また、症状が悪化するとともに  $\theta$  波が増加したが  $\delta$  波はあまり認めなかった。この脳波像に近い症例として、アルコール依存者における振戦せん妄時の脳波が考えられる。

BZP とアルコールの作用機序は近いとされているため、両者の脳波は近い所見を示す可能性が考えられる。

福岡大学病院 092-801-1011(内線：2279)